

# 非常時の大学英語授業のオンライン実施に関する考察

## —2020 年度春学期の振り返り—

木村修平\*1・近藤雪絵\*2

Email: kimuras@fc.ritsumeai.ac.jp

\*1: 立命館大学生命科学部

\*2: 立命館大学薬学部

◎Key Words オンライン授業, プロジェクト型教育, 大学英語教育, 教育 ICT 活用

### 1. はじめに

本研究の目的は、立命館大学において2020年度春学期にオンラインで実施されたプロジェクト型大学英語授業の実践について、ICT利活用の観点から時系列に記録し、その達成点と課題点を報告することにある。

立命館大学のプロジェクト発信型英語プログラム(Project-based English Program, 以下、PEP と略す)は、学生の興味・関心に基づいたプロジェクト活動を英語で表現するという教育実践であり、2008年度から生命科学部、薬学部などに導入されている。プロジェクト遂行にICTを積極的に活用することもPEPの大きな特徴である<sup>(1)</sup>。

まず、立命館大学が2020年度春学期の授業をオンラインで実施するに至った経緯を時系列に述べる。次に、LMSの不通がもたらす教育実践上の現実的な障害要素を、成績評価に関わる機能である「アセスメント」、学生間および学生と教員の連絡や交流に関わる「コミュニケーション」、教員からの教材提示や情報共有を行う「プレゼンテーション」の3つに分類して論じる。さらに、これらの3つの要素をPEPがどのようにリスクヘッジしたのかについて具体的に述べ、最後にそれらの達成点と課題点を検討する。

### 2. オンライン授業実施とLMSダウンによる混乱

2020年2月3日、乗客に新型コロナウイルス感染者を含むクルーズ船が横浜港に入港し、その2週間後、国内初の死亡事例が確認された。同27日、安倍首相が全国すべての小学校、中学校、高校に春休みを待たず一斉休校を要請する考えを示すに至り<sup>(2)</sup>、日本の教育は戦後最大級とも言うべき非常事態に陥った。

同日、立命館大学は2019年度の卒業式ならびに学位授与式および2020年度の入学式の中止を発表した<sup>(3)</sup>。しかしながら、春学期の授業は予定どおり4月6日から開講するものとし、実施形態は「教室では行わず、WEBを活用した形態」で行うと全学に通知した<sup>(4)</sup>。オンライン授業は全学LMS(Learning Management System)のmanaba+Rを通じて実施されることが想定されていたが、開講を目前に控えた3月中旬になっても学生や教員からは戸惑いの声が上がっていた<sup>(5)</sup>。

manaba+Rに加えてビデオ会議システムの活用も検討されたが、3月中旬の時点で大学が教員に提供できたのはMicrosoft社のOffice 365に付随するSkype for Businessのみだった。Skype for Businessは事実上開発が終了しているサービスであり、グループウェアのTeamsへの移行が推

奨されているが、立命館大学は有効化していなかった。

春学期の授業初日は開始直前から大混乱を来した。LMSにアクセスが集中したため、タイムアウトが頻発し、事実上の不通状態となった<sup>(6)</sup>。授業が受けられない学生、授業を届けられない教員の苛立ちや不安はTwitter上で炸裂し、一時的に「manaba」がトレンドワードとして急浮上するほどだった<sup>(7)</sup>。また、一部の教員はTwitterで指示を出すなど懸命に授業を行おうとしたが(図1)、LMSの不通によりそもそも学生が教材をダウンロードできないという事態はもはや教員個人の能力でどうにかなるものではなかった。

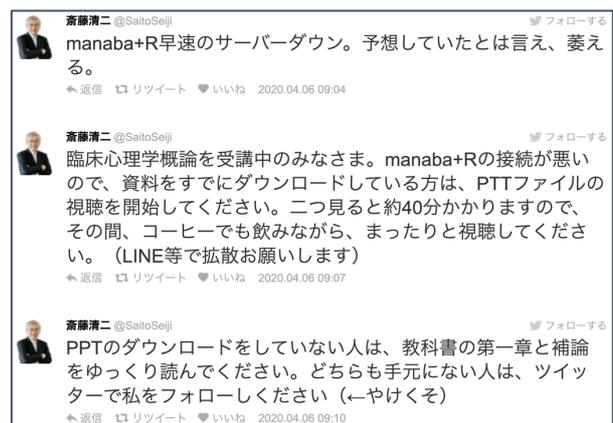


図1 立命館大学の教員による4月6日のツイート<sup>(8)</sup>

翌4月7日、政府による7都府県を対象とした緊急事態宣言が発出され、立命館大学は同宣言の外出自粛などの要請期間である4月8日から5月6日までを全面休講とし、キャンパスへの入構も原則禁止とした<sup>(9)</sup>。このため、継続実施が危ぶまれた春学期のオンライン授業はわずか1日で中止されることとなった。

### 3. LMS不通で露呈したオンライン授業の脆弱性

立命館大学のオンライン授業をめぐる初期の混乱は、単純明快な教訓を示している。すなわち、授業に必要な機能を提供するシステムが不通になった場合、授業が立ち行かなくなるのである。この教訓を活かすのであれば、システムの安定性を高めることも重要だが、同様の事態に備えてリスクヘッジを検討するべきだろう。

manaba+Rは株式会社朝日ネットが提供するLMSであり、立命館大学は2013年度から全学規模で導入している。公平に見てmanaba+Rはごくごく標準的なLMSである。

目を見張るような斬新な機能こそないが、誰もが直感的に使える機能を過不足なく備えていると言える。以下、代表的な機能を列挙し、成績評価に関わるものを「アセスメント」、学生間の交流や教員との連絡に関わるものを「コミュニケーション」、教員から学生への教材や情報の提示に関わるものを「プレゼンテーション」に分類する(表1)。

表1 manaba+R の主な機能と分類

機能	機能の分類
小テスト	アセスメント
レポート	
プロジェクト	
掲示板	コミュニケーション
アンケート	
コースニュース	
オンラインシラバス	プレゼンテーション
成績 (採点結果)	
コンテンツ (教材)	

立命館大学のオンライン授業にとって、manaba+R の不透明はアセスメント、コミュニケーション、プレゼンテーションという要素をすべて喪失することと同義だった。仮に前述の Teams が有効化されていればコミュニケーションの機能は補完できた可能性が高かったと思われるが、そうした代替手段の乏しさがそのまま教育実践の基盤を揺るがす脆弱性になって露呈したと言える。

#### 4. PEP によるリスクヘッジ

前節の教訓を活かして、PEP は授業に関わるアセスメント、コミュニケーション、プレゼンテーションそれぞれの機能を表2のようにヘッジ(分散)することにした。

表2 PEP における授業機能のリスクヘッジ

機能の分類	ヘッジ先のサービス
アセスメント	manaba+R の「小テスト」、「レポート」、「プロジェクト」
コミュニケーション	Slack の授業用ワークスペース Zoom 上のオンライン授業
プレゼンテーション	OneDrive (コンテンツ保存用) YouTube (動画教材提示用)

ヘッジにあたっては、学生の個人情報を含むデータの蓄積や利用は大学が公式に提供しているシステムやサービスを用いるという原則に基づいた。そのため成績算出に関わるアセスメントには manaba+R の機能を用いた。また、学生による英語プレゼンテーションを録画したファイルなどの課題も Office 365 に含まれる OneDrive 内を提出場所とした。

コミュニケーションの機能は Slack に授業用ワークスペースを設け、manaba+R の掲示板を通じて参加を呼びかけた。これにより PEP を導入している 2 学部 3 学年の 90%以上にあたる約 1300 名が参加するコミュニティが生まれた。

プレゼンテーションについては、教員は教材ファイルを OneDrive に保存し、共有 URL を Slack 上で告知するこ

とを原則とした。また、ソフトやサービスの使い方など全体で共有すべき動画は YouTube 上で公開した。ファイルのアップロードは LMS への負荷を高めるため、こうしたプレゼンテーション機能の外部へのヘッジは結果としてシステムの負荷軽減に役立ったものと考えられる。

#### 5. おわりに：インフラとしての ICT

立命館大学では 5 月 7 日にオンライン授業が再開された。休講中、manaba+R の安定性は改善されたほか、全教員に Zoom アカウントが発行されるなど、オンライン授業の体制が全学規模で増強された。PEP は前節のヘッジ体制を基本としつつ、カンファレンス型テレカンファレンスツールなどを実験的に活用するなど、秋学期に向けたオンライン授業の新たな可能性の追究を続けている。

PEP が教育 ICT 活用でこうした積極的な姿勢を維持できている背景には、冒頭で述べたように、プログラム全体が ICT を教育実践や研究活動のインフラに据えているからに他ならない。オンライン授業の実践にあたって、普段の仕事で使っているツールを応用しているに過ぎない。一例として、コミュニケーション機能のヘッジ先である Slack は教員間の連絡ツールとして 2018 年度から活用している<sup>(10)</sup>。

本稿執筆時点で春学期はまだ終了していないため、PEP のこうしたオンライン授業に関わる試みの成果を論じることができない。本稿で触れた多くの試みは、非常時に PEP が蒔いた種であると言える。これらの種がどのような花を咲かせ、実を結んだのかは、改めて報告したい。

#### 参考文献

- (1) 木村修平：“CALL から CILL へ：SFC 英語から生まれたプロジェクト発信型英語プログラムを例に”，KEIO SFC JOURNAL, 19(2), pp.208-226 (2020).
- (2) 首相官邸：“新型コロナウイルス感染症対策本部(第15回)” [https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/actions/202002/27corona.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202002/27corona.html)
- (3) 立命館大学：“新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う 2019 年度立命館大学卒業式・大学院学位授与式および 2020 年度立命館大学・大学院入学式の開催中止について” <http://www.ritsumeai.ac.jp/news/detail/?id=1680>
- (4) 同上：“2020 年度春学期の授業に関する重要なお知らせ” [http://www.ritsumeai.ac.jp/startup/common/file/top\\_200316.pdf](http://www.ritsumeai.ac.jp/startup/common/file/top_200316.pdf)
- (5) 立命館大学新聞社：“「戸惑い広がるウェブ授業」全容いまだ見えず” <https://ritsumeikanunivpress.com/03/24/3163/>
- (6) 同上：“講義 WEB 化で manaba+R へアクセス集中 つながりにくい状態に” <https://ritsumeikanunivpress.com/04/06/3310/>
- (7) 飯尾淳：“オンライン講義開始で何が起ったか” <https://iio-lab.blogspot.com/2020/04/we-need-another-plan.html>
- (8) 吉田ますみ：“4/8 最終更新：大学における遠隔授業/オンライン授業 Tips 等まとめ” <https://togetter.com/li/1488718>
- (9) 立命館大学：“立命館大学全キャンパスの入構禁止と授業の休講について (2020 年 4 月 8 日～5 月 6 日)” <http://www.ritsumeai.ac.jp/news/detail/?id=1716>
- (10) 木村修平・落合淑美・近藤雪絵：英語プログラム独自 FD を通じた新任教員の研修と効果—所属レイヤーに最適化したサポート体制の一事例として—, 第 25 回大学教育研究フォーラム, 口頭発表(2019 年 3 月 23 日).